

スマイル Smile



今、私たちにできること... 待っている人に届けること

被災者支援・事業 復旧支援に全力を

代表取締役社長 西村 修一

3月11日発生した東日本大震災は、死亡・行方不明者が2万数千名と戦後最大の災害となっています。当社も、小野寺嶺さん（21歳）が亡くなられるとともに、社員のご家族で亡くなられた方や行方不明の方が数名出ておられます。被災された皆さんに心からお見舞い申し上げます。

被災以来、対策本部を立ち上げ、社員の安否確認、安全確保を最優先に、被災者支援、事業復旧支援に全社を挙げて取り組みを進めています。

施設・設備の点検終了後、いち早くKRC・久喜を主体に、東北への支援物資対応を進めました。その物量は3月末現在で、車両台数で400台、商品点数で6000万個を超えています。テレビ・新聞等でも報道されたように、生協のいち早い災害復興対応を支えました。また、KRC・野田・関東配送センターは、震災によるマテハンの障害、欠品対応に加え、計画停電による混乱の影響も受けて、24時間稼働体制となり、朝までに集品しきれない日も発生しましたが、当該事業所の奮闘に加え、全国からの支援体制で乗り切り、集品できなかった分もその週内には集品完了しました。TCやDC部分も、震災やその後の原発事故の影響から、商品の異常な受注状況への対応せまれましたが、会員生協に大きなご迷惑をおかけすることなく、対応進めています。

加えて、震災で施設・設備に大きな被害のあった仙台流通センター・東北の要物流、印西の事業復旧に努力し、すでに段階稼働に入り、全面復旧に向け努力を進めています。

「欲しい商品を、欲しい時に、欲しい数だけ、品質が保証されたものをお届けする」ことが物流業の社会的使命です。通常は、そのことはできて当たり前ですが、こういうときはその当たり前でできることが感謝され、誇りをもって業務を進めることができます。こういう時こそ、「シーエックスカーゴがあつてよかった（貢献）」「シーエックスカーゴは信頼できる会社（信頼）」「さすが、シーエックスカーゴは物流のプロ（誇り）」「シーエックスカーゴはチャレンジしていく会社（挑戦）」と評価をうけられるよう、十二分に力を発揮するべき時です。

夏に想定される計画停電対応を含め、これからの復興への道のりは険しいと想定されます。私自身16年前阪神淡路大震災を経験しその復興にも対応しましたが、16年前と比較し会社の力は格段についていることを実感しています。全社で力をあわせれば道は拓けます。「2009年から2010年、新規事業で安定稼働を実現し、2011年で震災復興に貢献でき、そのことがその後の会社の発展につながった」と、10年後、20年後、振り返ることができるよう、未来を見つめ、リーダーシップを発揮していきたいと思っています。

震災発生以来の、社員のみなさんの奮闘に心から感謝申し上げますとともに、被災者の生活再建に向け、被災生協の事業復旧に向け、引き続き、力添えを心からお願いたします。

2011.3.11 14:46
M9.0 東日本大震災発生
「シーエックスカーゴ21日間の軌跡」

東日本大震災発生

岩沼センター



津波で流されてきたガレキが山積みになっており、近づくことすら困難。飛行機までも流されてきた。

仙台流通センター



津波が引いたあとのSRC前の様子。津波による被害は小さかったものの、大きな揺れにより庫内、事務所ともに大きな被害。

2011年3月11日(金) 14:46

印西営業所



野田流通センター



社員1名を喪^{うしな}う、 ご家族・ご親族の死者・行方不明者も

地震 津波 その時……<SRCの社員の方より>

- 家に向かって車を走らせていましたが、前方から来る車のパッシングでUターンしました。その後、津波が押し寄せ、慌てて道端の少し小高くなったところに車を突っ込んだところ、周りの人や車が津波に流されていきました。翌日の午後、自衛隊のヘリコプターで救出されました。
- 帰宅後、津波の警報が鳴り響き、外に飛び出しました。大丈夫かとも思いましたが念のため車で山側を目指しました。後ろを振り返ると、黒煙のような水しぶきを上げ、津波が一気に押し寄せてきました。家も近所の人々も一瞬にして飲みこまれていったのが見えました。

仙台流通センター・岩沼センター社員の家屋被災状況

	居住不可	床下浸水 (居住可)	居住可	総計
岩沼市	4	2	15	21
亘理町	2		4	6
名取市	1		4	5
仙台市			11	11
大河原町			4	4
その他			5	5
総計	7	2	43	52

(2011.4.1集計)

(戸)



て 緊急支援便

救援物資

◀ 救援物資の積み込み



▲ 倉庫の外にまで溢れ出す救援物資



◀ 本社：対策本部立ち上げ

12日(土)

原発が爆発！

● 関東地区のセンターの復旧に向け、支援者の手配などの対応を急ぐ。野田流通センターで出発。

● 支援物資第一便がみやぎ生協に到着。この日は、桶川・東海から続々と緊急支援便が出発。

【一夜明けて施設・設備の被害状況が明らかに！】

● S R C社員3名の安否が確認が出来る。

● 徐々に通信が復旧し始め、S R C、岩沼センターの状況が少しずつ明らかになる。S R C周辺は、津波の水が引き始めている状況。庫内は一部が浸水、パレット・商品が大量に落下。岩沼センターは、冠水し立入禁止。会議のため本社にいた白川所長が緊急支援便でS R Cへ向かう。

● 支援物資第一便がみやぎ生協に到着。この日は、桶川・東海から続々と緊急支援便が出発。

● 関東地区のセンターの復旧に向け、支援者の手配などの対応を急ぐ。野田流通センターで

3月11日(金)

M 9.0 巨大地震・大津波発生！

【全国各地で被害 状況把握の中での緊急支援便出発】

● 地震発生。震災対策本部を本社に設置。余震が続く中、状況確認に入る。

● 地震直後、S R Cと電話がつながり、出勤している社員の無事を確認。TVの津波映像を見て、とにかく高いところに向かって逃げた。以降電話連絡はつかず。伝言ダイヤルに登録するなどし社員の安否確認を急ぐ。

● 関東でも状況がつかめず。時々つながる電話などから、野田流通センターでは商品が大量に落下、印西営業所は水漏れが発生、久喜営業所ではサーバーがダウンなどという断片的な情報が入る。

● K R Cが機能できることを確認の上、緊急支援物資出荷に入る。夜には第一便として、支援物資を積んだトラック4台が桶川よりみやぎ生協に向け出発。

● 野田では菓子・食品の店舗仕分けを停止。



社内の動き(敬称略)

桶川を出発したのは夜中の12時過ぎくらいでした。真っ暗な中、ひび割れた高速道路を走行していましたが、道路の状況が全く分からない暗い道をこれ以上走るのは危険と判断し、一旦インターチェンジで休憩を取り、明るくなるのを待つことにしました。インターチェンジ内のコンビニに入ると、店員さんが「これから向かうんじゃ大変だと思えますので、皆さんで食べてください。」と、人数分の肉まんを持ってきてくれました。さらに、「これ、皆さんで」と缶コーヒーも1本ずつくれたんです。それが本当にありがたくて、今まで食べたことないくらいおいしかったです。それまでは、とにかく「行かなくちゃ、届けなくちゃ」と思っていました。そのあたりから、「行ったら絶対にみんな無事帰ってこなくちゃいけない」と強く思うようになりました。

翌朝7時には現地に着いたのですが、納品先の宮城県富谷SCの方は「どうやって来られたんですか?」とキョトンとした顔をされていました。恐らく、関東圏から支援物資を運んだ車の中では一番早かったんじゃないかなと思います。

やっと納品を終え、帰ることになりました。行きはところどころ自衛隊の方々がひび割れた箇所に土嚢を積んで直してくれていたのですが、帰り道はその対応がされておらず、道の半分は陥没してひび割れていて、とても大変でした。ずっと余震が続いていたし、長野で大きな地震もあったし、日本はどうなるんだろう、帰る場所はあるのかな、と本当に怖くなりました。

正直、今回の件で、うちの会社はすごいなと改めて思いました。みんなへろへろになって働きながら、そんな状態でも荷物を届けようとしてくれる人たちはすごいな。そんな会社の一員であることに改めて感じ、これからも誇りを持って仕事をしたいと思っています。

(関東配送センター 桶川事業所 石川晃)

救援物資を運んだ、関東配送センター 桶川事業所の乗務員の方々



左から、石川晃さん、横手謙一さん、大橋雄一さん、小谷野宏さん

救援物資 第一弾	お茶 500ml	28,800本
	カップ麺	28,512個
	クッキー	27,020個
	割り箸	2,000本
	カイロ	25,320個

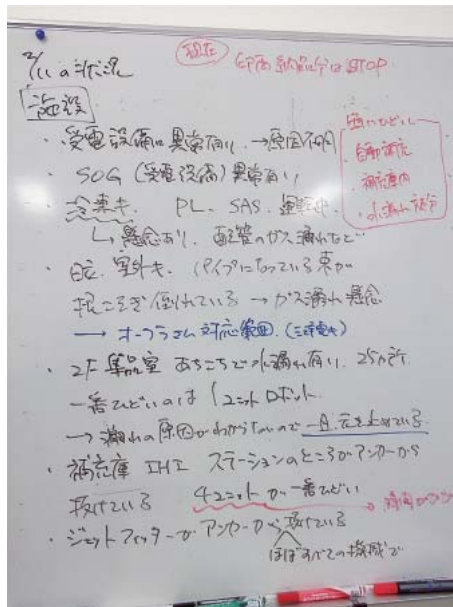
震災対応 そし

修復作業

▼天井から漏れた水を清掃



▶倒れた靴箱の片付け作業



▲対策協議にて現状を確認



▲総動員で片付け

3月13日(日)	3月
<h3>計画停電実施発表</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●SRC社員3名について、依然、連絡が取れず、NHKへのメッセージ依頼、役場への問い合わせなどあらゆる手段を使い、情報収集を続ける。 ●白川所長がSRC・岩沼センターへ到着。SRCの車両は無事。タイヤには10〜20センチの浸水跡あり。一方岩沼センターはSRCとは比較にならないほど大きな被害。建物がかたむき、プラットホームを越えて水跡が残る。また、停電が続いているため、商品は全滅。 ●野田流通センターでは、マテハン障害と、受注増により、前日の店舗作業が昼になっても終了しないという非常事態。前日に引き続き、全国の社員約60名が支援に入る。佐藤専務が野田流通センターへ入り状況確認。店舗物量は10万ケース超えと、通常の3倍となる。米は8倍以上。コープネット、協栄流通と協議し、小分け出荷を無しとすることを決定。印西営業所では、引き続き復旧作業実施。 ●計画停電実施が発表され、本社では対応の検討に入る。 	<h3>福島第一</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●は、自動倉庫12本中6本が動かない状態。3階の酒の多くが破損。店舗からの受注が年末並みにはねる。一部手仕分けに回し、集品を開始するも終わりの見込みが立たず、落下面品の整理のため朝から支援に入っていた本社、他営業所社員、日本生協連、コープネット職員の方が仕分けに回る。 ●印西営業所では、建物屋上の水管の破れより依然として水漏れが続く。マテハンに大きなダメージを受け、作業が出来ない状態。 ●久喜営業所は、サーバーが復旧。 ●停電による渋滞などで、各DC入庫遅れが目立つ。 <p>【野田流通センターの店舗仕分け 翌日まで続く】</p> 

●日本経済新聞 桶川より、しょうゆ、みそ、もちなどの食材を10トン車で11台分、宮城県に配送との報道。

3月12日午前中、緊急支援の配送が発生するとの連絡が入りました。当時、ニュース・ネットでは東北道は通行止と報道され、被災地の状況は未知で、協力会社も当てにならない状況でした。

「救命救命講習」(消防署) 終了後、乗務員達へこの状況を報告すると、開口一番、伊藤・水田乗務員から「俺、行きます」との言葉が。それを聞いて内心ほっとし、本当に気持ちの熱い乗務員がいると、感慨深い気持ちになりました。

初陣は、水田・與世原乗務員。小牧で0時30分に商品積込↓久喜警察署で道路通行許可申請↓富谷納品完了14時30分↓21時30分桶川着。その後、伊藤・島口乗務員が第二陣として向かいました。震災の影響を受けた営業所の方々は大変な状況にあることを、乗務員みんなが認識していましたし、「被災地へ物資を届けるために、東海配送センターでの最善を尽くす」その一念をだれもが持っていました。


道中は、至る所に亀裂や段差があり、進めば進むほど状況が悪化していきましたが、なんとか無事に到着することができました。納品先の富谷SCの方は、愛知県から来た事を知り驚いていました。「遠くからお疲れ様です」と感謝の言葉を頂きましたが、「本当に大変なのは自分達でなく、みなさんの…」と胸が熱くなりました。

配送支援に向いた乗務員だけでなく、残された乗務員達も地域の配送で負荷のかかる状況の中、事故なく運行を継続しました。

これからの復興に向けて1日1日が大変な毎日になると思われませんが、今回震災に遭われた多くの方々に、元の生活が一日も早く戻りますように、東海エリア社員一同、心よりお祈り申し上げます。

(東海配送センター 主任 濹谷豊)

救援物資を運んだ、東海配送センターの乗務員の方々



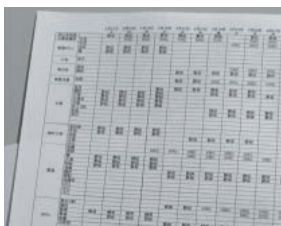
左から、島口 康さん、與世原 朝希さん、伊藤 信明さん、水田 謙司さん

今回の運行で、少しでも被災地の皆さんに協力できた事に誇りを持ちたいです。皆さんの力になりたいので、機会があれば何回でも俺達は走ります。1日も早く復興して被災地に元の生活が戻りますように心から祈ってます。

全社支援体制へ

最後まで、安否の確認がとれていなかったSRCの小野寺嶺さん(21歳・2010年10月入社・P社員・巨理町荒浜)について、3月17日夜に、お父様から遺体を確認したとの連絡が会社に入りました。小野寺さんは、3月11日は指定休となっており、自宅でお姉様とともに被害にあわれた模様です。自宅は海と河口の近くでした。

被災時点から、お父様は各避難所を回り、途中で奥様が無事に見つかったことから、嶺さんたちの生存を信じて必死に探していたところ、遺体安置所となっている高校での確認となりました。小野寺嶺さんのご冥福をお祈り致します。



▲支援メンバー一覧表



▲対策本部組織体制図

◀計画停電表



▲支援メンバーを調整中

3月16日(水)	3月15日(火)	3月14日(月)
<p>死者不明者1万人を超える!</p> <p>【緊急支援使用の在庫・出荷増】</p> <ul style="list-style-type: none"> ただ一人連絡が取れていなかったSRC小野寺さんの計報が入る。 SRCでは、出荷可能な商品を支援物資にすることを検討。リ 	<p>原発再び爆発。都内で放射能観測</p> <p>【不眠・不伏状態続く】</p> <ul style="list-style-type: none"> SRCの社員で連絡が取れていなかった2名中1名と連絡が取れる。無事であるが自宅は全壊とのこと。あと1名。SRCでは乗務員も含め、商品の整理、梱包を開始。 計画停電について、KRC、久喜営業所は朝一番実施のグループであったが、実施されなかったため作業開始。その後、KRC、久喜営業所、印西営業所については計画停電の対象外と判明。野田流通センターも18日までは停電がない模様。所沢事業所では停電実施。 緊急支援物資の物量が多く、通常のDC業務との兼務が困難に。 3月10日に定年退職したP社員にも緊急支援の呼びかけを行う。 KRCのSCでは欠品処理対応などにより大幅作業遅延が発生。数十名の支援が入るも作業終了は翌8時。 	<p>計画停電実施、交通機関マヒ</p> <p>【計画停電を意識してのクライム停止：SC作業遅れ発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> SRCの社員で連絡が取れていなかった3名中1名と連絡が取れる。残り2名の安否確認を急ぐ。 関東での計画停電に関しての情報収集に追われるも同じ市町村でも停電の時間帯が複数あるため難航。停電が作業中に実施された場合、マテハン・システムの復旧に時間がかかることが予想されたため、事前に作業を止める。それに加え、電車の運休、渋滞、学校の臨時休校、ガソリン不足などによる出勤率悪化もあり、作業に大幅な遅れが発生。実際には関東の各事業所で停電は起きず。この日も約50名が野田支援。

社内の動き(敬称略)

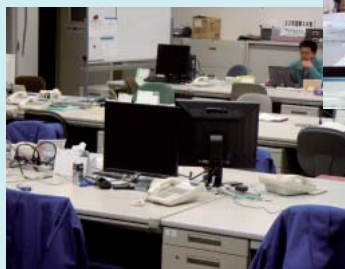
●「とくダネ!」で緊急支援便について放映。

●フジテレビ 緊急支援便について取材・放映。

支援に入ったメンバー



◀KRCの支援体制を考える第二事業本部 猪俣マネージャー



▲支援で出払っている事業支援本部



野田の在庫合わせをする▶ 第三事業本部

印西では作業できない状況が続いた

印西営業所では、震災により業務が全くできない状況になりました。集品ラインは横に大きくズレ、補充庫の中はメチャクチャ、天井からは水が降ってくる。たまたま集品作業が休みの日でしたが、稼働していたら大変なことになっていたと思います。現在、まだ完全ではありませんが稼働できました。被災された方にも多くの物資が届けられるように、一步一步前進していきたいです。(ユニット班長 飯岡 弘規)



印西からも野田支援へ

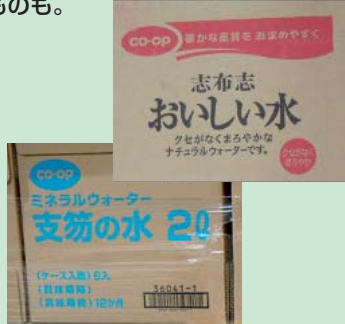
廊下が波打ち、天井が揺れ動き、経験したことのない大地震に遭遇しました。その時から業務は止まりました。いつ再開されるのか?P社員の休業はいつまで続くのか?複雑な、また結論の出ないつらい思いでいっぱいでした。そんな中、野田支援の話があり、印西のメンバー30~40名と一緒に仕事をすることができました。我々に仕事させていただけの先方の受け入れに感謝しました。

一日も早い完全復旧に、全社員の協力は不可欠です。早くみんなで楽しく働ける営業所に戻ることを願う毎日です。(夜間ユニット班長 中屋 幸成)



余震、原発、計画停電の備えによる水不足

震災直後は主に宮城県へ、その後、原発事故による水質汚染の影響を受け、福島県などへも出荷。中には、北海道・九州などから運ばれたものやラベル無しで生産したのものも。



▲支援物資の保管をしている原市倉庫

計画停電と作業遅れ

▶SRC：自動倉庫の復旧作業に尽力



3月20日(日)	3月19日(土)	3月18日(金)	3月17日(木)
<p>石巻で2名救出！</p> <p>●SRCに明かりが！緊急支援物資用外部倉庫、上尾市原市に現る！</p> <p>●SRCでは電気が復旧。</p> <p>●KRC、野田流通センターのSCでは、震災後のOCR回収分の企画開始。KRCでは、米が大量で集品が追いつかず。野田流通センターでは欠品。物量増によりカゴ車の不足が深刻化。</p> <p>●外部倉庫に緊急支援物資の在庫の移動を行い、夜から集品を開始。</p>	<p>さいたまスーパーアリーナが避難所に</p> <p>【宅配 震災後初の受注、通常の130%の物量 KRC・野田も7バッチに】</p> <p>●SRC復旧にむけた体制を検討するも深刻なガソリン不足により社員の通勤手段の確保が課題に。</p> <p>●野田流通センターNBセンターで受注再開。入庫待ちトラックが、100台以上ののぼり、受けきれない状況となる。外部倉庫を手配。</p> <p>●KRCにて東北の店舗向けの配送が開始。</p> <p>●KRCでは、フォークリフトの充電が追いつかず台数が不足。</p>	<p>ガソリン不足ピークに</p> <p>【金曜日のSC集品】</p> <p>●震災当日のOCR電算トラブル分と火曜日未出荷分の集品のため、金曜日にもかかわらずP社員に出勤してもらい集品作業を行う。</p> <p>●KRC、野田流通センターへの在庫量が増加、全てを受けきれない状況になってきたため、外部倉庫手配の検討を進める。</p> <p>●KRCへ、ならこープなどからも支援に来て下さることに。</p> <p>●2011年度新卒社員の前倒し入社を検討。</p>	<p>原発に放水開始！</p> <p>●スト作成を開始。</p> <p>●KRCでは、緊急支援用の水が大型45台分入荷し、周囲に入庫車両が並ぶ。入庫作業、保管スペースが不足。</p> <p>●緊急支援便の出荷対応が激しくなる。野田流通センターの人材確保のため印西営業所からバスを2便運行。所沢事業所では停電実施。</p> <p>●本社では、緊急支援物資配送に関して取材が殺到。</p> <p>●臨時の常勤役員会にて、SRC、岩沼センターの社員に対し災害見舞金の支給を、賃金は就労データなしで平均賃金での支給決定。</p>

●テレビ朝日 「やじうまプラス」で桶川での支援物資提供と商品調達について放映。

●毎日新聞 日本生協連が、食料品や飲料水を中心に支援物資約130万個を提供、桶川物流センターを拠点に、15日10時時点で約130万個の物資を被災地に輸送、と報道。

3月21日に前倒し入社した新入社員



震災当日は、実家のある岩手に帰省していました。ガソリンがなく、何かをしたくてもできない状況でした。会社から前倒し入社連絡を受け、家のことも心配でしたが、何かするためには、家から出なければ、と思いました。



◀実家が被害にあった 千田 初妃さん

退職したにも関わらず、急遽支援にかけつけてくれた元KRCのP社員の方々



石川 春美さん(元KRC業務3課 副班長)

65歳定年により3月10日をもって退職することが決まったとき、「まだまだ若いから、手が足りない時はいつでも呼んでね」と半ば冗談まじりに主任と話をしていました。それがまさかこんな形で現実になろうとは思っていませんでした。今、日本は大変な時を迎えています、明るい明日は必ず来ます。がんばってください。シーエックスカーゴの皆さん、お世話になりました。そしてありがとう。

復興に向けて

SRC

SRCの復旧にあたった元SRCメンバー

吉田 和寛さん、西口 隆司さん、佐藤 利弘さん、
斎藤 正男さん、布川 和人さん、大宮 登志幸さん

当日、早番の仕事を終えて午後3時くらいに家に帰ってテレビをつけると、仙台空港に津波が来ていた映像が流れていました。それを見た途端、センターや一緒に働いた仲間が心配になり、携帯電話で連絡を取りましたが、全く通じませんでした。その状態が一週間位したところ、やっとSRCにいる日端さんと連絡が取れ、無事だということが確認できました。



マネージャーにはSRCに支援に行きたいという意思を表現していましたが、21日、正式に「川守田、行け！」と言われ、正直嬉しかったです。

到着してみると周りには一面瓦礫の山。SRCは外観からは被害が分かりませんでしたが、庫内は見ることがないような悲惨な状況になっていて、一刻も早く復旧させるために、一生懸命全力を尽くしてきました。SRC社員や支援メンバー全員の大変な努力と思いの甲斐あって、はじめの酷さからみると、かなり早く復旧出来てきていると思います。

微力ではありましたが、復旧作業に携われて本当に良かったです。（九州流通センター 業務1課 川守田 雅徳）

自宅が津波の被害にあい、家に帰ることができず、会社で寝泊りしていたSRCメンバー



▲就労データがない中、給与明細をお届け

14日には震災後初めて集合▶

3月26日(土)	3月25日(金)	3月24日(木)	3月23日(水)	3月22日(火)	3月21日(月)
<ul style="list-style-type: none"> ● 支援物資としてコップふくしま等へ水の配送が急増。野田流通センターの店舗出荷で、停止していた小分けを再開。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 印西営業所で、P社員説明会を開催。被災状況、休業期間の動息処理、今後の稼働計画等を説明。天井修復工事が完了。空調、冷凍設備、電気工事、追加の耐震工事を進める。 	<p>【東北の物流機能をKRC、久喜営業所が担う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SRC自動倉庫復旧に向け、施設管理部メンバーが奮闘。サンネットの店舗向けの入庫が開始。上下水が使用可能に。SRCへ宿泊していたメンバーは、一旦本社へ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働組合が、KRC、野田流通センターなどへ栄養ドリンク計2000本を差し入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 印西営業所では、27日から作業を開始することを決定。 ● KRCでは依然として人員不足。2011年度新卒新入社員前倒し入社。3月31日までP社員としてKRCの作業支援にあたる。緊急支援物資としては、衣料品が増える。野田流通センターでは相変わらず物量が多い状況が続く、ドリー・オリコンが不足。 	<p>【SRC前倒し集品、物量増にてオリコン・ドリー・カゴ車不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SRCの復旧が本格化。自動倉庫の復旧に向け、クレーンをふさいでいたパレットの撤去作業や、商品の整理などを進める。大量の破損商品の一部を岩沼市へ支援物資として引き渡し。

社内の動き（敬称略）

- NHK「Bizスポ・ワイド」に日本生協連山下会長が出演。被災地支援について語る。
- 読売新聞（東京）3月24日会員生協と日本生協連の支援活動について「生協、組織力を生かし支援」という見出しで報道。



3月21日付けで出向社員としてシーエックスカーゴに赴任。赴任後すぐに支援に。

組合員さんに届く商品の業務にあたらせていただき、現場の方にご迷惑をおかけしながらでしたが、初めて直接的に組合員さんに繋がる商品に想いを込めながら、一生懸命取り組みました。（総合マネジメント室 栗原 裕之）



今回の震災は東北地方はもちろんですが、茨城県や千葉県にも大きな被害をもたらしました。コープネットグループでも被害に遭われた組合員さんも多いと聞きました。

「注文いただいた商品を届ける」という当たり前のことが出来ない、という状況は関係する人間として本当に辛いことです。

本社からの支援に参加し、全ての社員が丸となって最善を尽くそうと努力していることを、文字や言葉だけでなく自ら経験することで強く感じました。（総務人事部 高橋 一夫）



故郷に想いを寄せながら・・・

私の両親は今回大きな被害が出ている山元町に住んでいます。震災後、やっと連絡が取れたのは5日後。実家は床上浸水し、車も2台ダメになってしまいましたが、幸い、弟も含めて無事とのことでホッとしています。

近いうちに帰省し、変わり果てたと聞いていた町をこの目で確かめ、自分に何が出来るか考えようと思っています。（KRC業務1課 菅野 信吾）

復旧に向けて奮闘する本社



▶ 支援と人事考課の集約を両立



◀ 支援物資の調整をする商品管理部



▲ 支援に入りながら、決算処理に追われる経理部



▲ 営業推進室が緊急支援物資配送センターに



▲支援物資を自衛隊と一緒に納品中



▲巨理町に届けた救援物資

復旧、そして



▲大きな余震後の自動倉庫の復旧作業



岩沼市、巨理町、山元町へ支援物資

◀カーゴのトラックで支援物資を納品

被災者のため。組合員のため。

困難を乗り越えシーエックスカーゴ再始動へ。

4月1日(金)	3月31日(木)	3月30日(水)	3月29日(火)	3月28日(月)	3月27日(日)
<p>● 4月1日 通常業務へ向けて！</p> <p>● SRC、破損商品を支援物資として、巨理町に引渡し。岩沼市、山元町へも配送。災害に伴う雇用保険失業給付の特例措置に関する説明会を開催。</p> <p>● 入社式 今年度9名入社。労働組合募金活動を開始（4月5日まで）</p>	<p>● KRCでは16Bオリコンの不足が予想され、回収強化を図る。野田流通センターでの欠品率は減少。業務は徐々に正常化へ向かう。</p>	<p>● 印西営業所、集品作業は順調、合わせて、未復旧部分の修理、テスト等続ける。</p> <p>● SRC復旧へ！</p> <p>● SRC、自動倉庫の棚卸作業を続ける。本格的な業務再開に向け、急ピッチで準備を続ける。</p>	<p>● 緊急支援物資としては相変わらず水の量が多く、外部倉庫に25台分程度在庫あり。野田流通センターでは引き続き人員不足。本社、印西営業所メンバーにて支援。</p>	<p>● 27日朝から、印西営業所であればらきコープ分集品開始。施設の修復対応を引き続き行う。避難訓練を実施し万一に備える。</p>	<p>● 「印西一部集品再開！」</p> <p>● SRCでは、自動倉庫の修復対応が続く。棚卸作業開始。雑貨の入庫開始。約1万7000ケースの破損商品が出たため、周辺自治体に支援物資として提供する調整に入る。</p>



▲前倒し入社し、4月1日に入社式を迎え、気持ちを新たに

● テレビ東京 3月27日 「池上彰の緊急報告 大震災のなぜに答える」で桶川から配送された支援物資が被災者の方々に手渡されるまでの様子を放映。



◀▶ 震災から1ヶ月、依然として続く余震…

支援便トラック 480台
(2011年4月1日現在)

対策本部会議回数 69回
(2011年4月7日現在)

▶ 全国で集められた募金



▶ 被災した仲間を少しでも助けたい!!



あなたの手で伝えられること

シーエックスカーゴはひとつ みんなの想いは必ず届く



十年後入社されるあなたへの手紙

前略

十年後入社し、この社内報を見つけたあなた、あなたは今、何を感じていますか？

きっと、誰かがこの特別号を大切に保管し、あなたに見せてくれたのだですね。

2011年3月11日発生した震災で、私たちは、仲間も失い、仲間は家族や家も失いました。施設・設備も東北、関東で大きな被害を受けました。

その中で、被災した人々たちへの緊急支援物資を運び、計画停電、商品不足、原発不安の中、物を届けるために深夜、早朝まで作業を続けました。全社支援体制で、荷主、協力会社の多くの人たちの協力で、待っている人々に物を届け続けました。

物流が全国で混乱する中、物を届けるという当たり前のことを続ける私たちの仕事は、テレビのトップニュースや特集で扱われるような「すごいこと」でした。私たちの手で物を届けるために、全員が本当に頑張ったのです。十分に表現できていない面もあると思います。でも、震災支援物資を届けるのと同じ気持ちで、今回の社内報を5000人の社員に、そして、その家族に届けたのです。

今、世の中は、こんな大きなことがあったのに、いつもと同じように美しい桜が咲き始めました。十年後もきっと桜は満開となるでしょう。桜の開花を感じながら、十年後入社されるあなたに届けたくて、編集の最後にこの手紙を書いています。

今回、前線で、不眠不休で働いた社員は、十年後には、すでに定年でないかもしれません。何のためにこんな夜遅くまで働かせるのですかと言っていた若手社員は幹部になっているかもしれません。情報が無いので何が行なわれているかわかりませんと言っていた社員も、当時のことを新人に説明しているかもしれません。

十年後、シーエックスカーゴに入社するあなたのために、その後も、みんなは数々の試練を乗り越え、頑張り続けていると思います。ぜひ、あなたにもその一員となってもらい、物を届けることで、想いをつなげていってほしい。十年間の時を超えて、あなたにこの気持ちを届けることができたなら、物流を仕事とした者として幸せです。

草々（社内報 編集責任者）



「今、私たちにできること」

社内報緊急支援特別号の発行が、決まったのは、3月30日。当初は、正直なところ、今は震災発生という有事で「こんな状況下で社内報を発行する意味があるのだろうか」と疑問を抱く気持ちのほうが強かった。記事を書くためには、原稿や写真をいろいろな人にお願しなければならぬ。実際に被災している営業所の方々には言うまでもなく、混乱している現場にとっても、そんなことに時間をかけている場合ではないだろう、というのがわれわれ編集担当者の共通する思いだった。

記事を書くことになって、改めて思い知らされた。伝えるべき私たちがあまりに会社の状況を理解していなかった。みんながひとつになるためには、正しい情報がきちんと共有できていなければ、正しい情報は、これではダメだ……会社が大変な事態となっている今、情報は十分に伝えられているだろうか。最前線でがんばっている社員の姿を知ってもらいたい。人手不足となっている現場の応援に行っただけで、支援ではないはずだ。そう思い、「今、私たちにできること」をもう一度見つめ直してみた。だからこそ、社内報を発行し、みんなの想いを届けるための橋渡しができれば……

今回の発行にあたり、お忙しい中、取材に協力してくださった皆さん、写真を提供してくださった皆さんに、心よりお礼申し上げます。今後、広報という媒体を通して、情報を「正確に」「わかりやすく」伝える使命を果たしていけるよう務めて参ります。

緊急支援特別号の発行に寄せて

まず始めに、今回の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。震災から間もない情報が錯綜する中で始まった、今回の臨時特別号。幾度となく壁にぶつかりながらも「今できること」に正面から向き合う編集部の皆様の方に、伝えることの難しさと大切さを改めて強く感じました。企業の枠を越え、想いを共有しながら編集、デザイン、印刷が丸となり取り組む機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

「望月印刷株式会社」

